いる。

② 成績にこだわりがあり，特に「下がる」ことに強い不安を抱いている。

(2) パーソナリティーの内容（情意的側面）

① 中学生という年代は，パーソナリティーの形成途上にあり，まだＳＣＴにはっきり現われるほど性格が個性化していない。しかしＳＣＴの反応，面接の結果，筆跡，体格等を考慮して分類してみた。

Ｓ型（分裂性気質）…８名
Ｈ(ヒステリー)…３名
Ｎ(神経質)…３名
Ｚ型（循環性気質）…１名
Ｅ型（粘着性気性）…３名

② 精神医学的性格類型では，次の特性に特徴が出ていた。

Ｓ型──→孤独性，非社交性，空想性，敏感性，非行動性
Ｈ──→小児性，非暗示性，自己顕示欲
Ｎ──→過敏性，不安定性，悲観性，劣等感，作業不全

(3) パーソナリティーの内容（指向的側面）

① 静的行動を好み，体を動かすなどの動的行動には消極的である。

② 依存的である半面，干渉されることを極度に嫌う傾向がある。

③ 空想の世界を好み，関心は精神的なものになっている。

④ 欲求が抑えられているためか，「大人になったら好きな事をやる。」「今できないことをやってやる。」等の反応が多い。逃避して自己を満足させているようにも思える。

(4) パーソナリティーの内容（力動的側面）

① 活力レベルが低下し，心身の不調を訴える内容が多い。

② 自分に自信がなく，他の人の能力，素質等を強くせん望している。

③ 「他の人の心が知りたい。」「私はいつも誤解される。」「私の気持ちはだれにもわからない。」「○○についあたりたくなる。」「自分をわかってもらえない。」といういらだち，強い欲求不満を抱えている。

(5) 決定要因（個体的要因）

① 運動能力，容ぼう等に強いコンプレックスをもち，現実の自我像にはマイナス面の反応が多い。

② 心身ともに疲れ，体力も落ちている。

③ 肥満度の高い（＋10％以上）生徒が多く，特に女子の場合は，周囲で考える以上にコンプレックスとなっている。

(6) 決定要因（家庭的要因）

① 総合的にマイナスのイメージでとらえている生徒が多い。

② 祖父母，父，母いずれかに対し，本人は,「すぐ怒る。」「細かいことにうるさい。」と反応している。

③ 家庭に居る時，うるさいほど自己主張しているか，反対に家族から遊離した行動をとっている。

(7) 決定要因（社会的要因）

① 友人間，家族間の人間関係は希薄であり，受動的である。

② 対人関係の不安，ストレスが予想以上に大きい。「人間関係が難しい。」「人と話すのが上手でない。」「話すととても疲れる。」「自分から友達をつくれない。」「友達とうまく遊べない。」「ひとの話が聞けない。」等

5. 事例

(1) 対象　中学校１年女子Ａ子

(2) 問題の概要

２学期の10月頃から登校をしぶり，断続的に欠席を繰り返していたが，両親がしった激励すると登校はしていた。しかし，両親への反抗的態度はますますエスカレートし，時には父親になぐられることもあった。２学期終了間際からついに連続欠席となる。

(3) 本人，両親との面接でわかったこと。

① ２～３歳頃の，親子のスキンシップが足りなかった。

② 小学校から成績は良い。特に父親の期待は大きく，生活全般に指示が多かった。